



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第50巻第
8号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第50巻第8号). 泌尿器科紀要 2004, 50(8): 598-598

ISSUE DATE:

2004-08

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/113415>

RIGHT:

4. 論文の訂正：査読審査の結果、原稿の訂正を求められた場合は、40日以内に、訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて、前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること、なお、Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 採択論文：論文が採択された場合、原稿を3.5インチフロッピーディスク・MO ディスク・CD-R・CD-RW のいずれかに保存し、編集部へ送付する。ディスクには論文受付番号・筆頭著者名・機種名・ソフトウェアとそのバージョンを明記する。Windows の場合は MS-Word・一太郎、また Macintosh の場合は EG-Word・MS-Word とし、特に Macintosh においては MS-DOS テキストファイルに保存して提出すること。
6. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
7. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
 - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,775円（税込）、英文は6,825円（税込）、超過頁は1頁につき7,350円（税込）、写真の製版代、凸版、トレース代、別冊、送料などは別に実費を申し受ける。
 - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は31,500円（税込）、6頁以上は1頁毎に10,500円（税込）を加算した額を申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については、掲載料を別途に申し受ける。
8. 別冊：実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

編 集 後 記

当教室に留学していた中国人泌尿器科医の招きで山東省済南を訪れた。済南はビールで有名な青島から西に400キロの内陸部にある。山東省立病院を見学し講演と意見交換を行ったが、新しく建設された病棟の近代的な設備に驚かされた。VIP 専用の新病棟では PET-CT が稼働しており、鏡視下手術室にはイソップも装備されていた。中国におけるハード面での充実ぶりは驚くべきものがある。そのいっぽう、古い病棟では廊下に多くの一般患者用ベットが雑然と置かれているという現実も垣間見た。日本の10倍の人口を持つ中国には日本とは比べものにならないくらい多様な人々が生活を営んでいる。その人々から放出されるエネルギーは想像以上に膨大なものであるに違いない。

私達が泊まった済南のホテルの隣にはサッカーアジアカップの会場があり、大会直前の盛り上がりを感じられた。帰国後、この会場における日本チームへのプーイングを知ることになったが、ここに滞在した経験からは信じられない気がした。少なくとも私達が出会った済南の医師や看護師達は皆暖かく私達日本人を歓待してくれた。これも中国の持つ一面なのだろう。毎昼毎晩、いろいろな種類の中華料理をいただいたが、中でも「今が旬」というセミの唐揚げには驚いた。土から這い出たばかりの20~30匹の大きなセミの幼虫がカラッと揚げて出されたのだが、強いお酒と一緒に食べた（食べざるをえなかった）ために味はお伝え出来ない。共に招かれたK教授は胃腸の調子を悪くして、中国人専門医による伝統マッサージを受けるという貴重な体験をされた。いずれにしても驚くべき中国である。

(小川 修)